関西自然保護機構会誌 25 (2) : 87－91, 2003

深泥池を美しくする会35年の歩み
(深泥池の保全のための市民グループの取り組み1)

深泥池を美しくする会会長 井 上 庄 助

Thirty-five-year chronology of the Society for Cleaning and Recovering the Mizorogaike Pond (Citizens movements for the conservation of the Mizorogaike Pond. 1). Shousuke Inoue (*Society for Cleaning & Recovering the Mizorogaike Pond, Kyoto*)

活動の展開にみる行政との協力

深泥が池を美しくする会(以後本会と略記)が発足してから既に38年が経過いたしました(巻末資料1参照)。この間の活動記録の主なものとして冊子「深泥池」(深泥池を美しくする会, 1985)があります。この冊子は32頁からなり, 本会20周年記念誌として出版されました。出版に際しては, 林田幸雄京都府知事からは表紙の題字のご揮毫を, 今川正彦京都市長からは巻頭の御挨拶のご寄稿を頂きました。今までに1万数千冊発行いたしました。

本会の発足後35年目の2004年4月には, 第6回環境問題を考える会および35周年記念事業「地球環境保全を世界に訴える音楽会」を深泥池畔で開催し,「深泥池の詩」(井上庄助・作詞, ボブ・佐久間・作曲)を発表致しました。発表当日は作曲された佐久間氏の指揮, 愛知金管アンサンブルの伴奏, 250余名の混声四部合唱により, 深泥池の詩が高らかに歌われました。合唱に参加された方々は, コーラスサークル・フミ, ドリーム女子コーラス, ドリーム混声コーラス, および上賀茂健康友の会歌う会の皆様でした。当日録音した合唱はCDに収録し, 希望者には有料(500円)で配付しています(巻末資料2参照)。

1965年7月8日第1回の役員会・第1回総会を開きました。この総会では, 京都市文化観光局主幹園部健吉氏に出席をしていただき, ご挨拶をいただきました。1965年11月3日の文化の日には池と周辺を清掃し, 畳3畳分位の大型啓発板と立て札を設置しました。翌1966年3月には桜7本を植樹し, 植樹祭では京都府文化財保護課長荒尾利就氏のご挨拶を受けました。翌1967年3月19日には蜷川虎三京都府知事および富井清京都市長が相次いで池に来られソメイヨシノ3本の記念植樹をされ, ご挨拶を受けました。蜷川知事は水産講習所のご出身で水生動植物の域でも精しく深泥池の重要性を訴えられたことを覚えております。

1972年には地学研究団体によるボーリング調査が開始されました。1977年には京都大学の北村四郎氏, 吉井良三氏を中心に, 京都市文化財保護課の総合調査が始まり, 1981年9月には調査の成果である「深泥池の自然と人」という分厚い冊子が本会へ寄贈されました。このようにして38年前の発足当初より, 京都府および京都市の指導の下, 本会は天然記念物「深泥池生物群集」の池及び周辺の清掃を年数回実施し, 地道に深泥池の保全活動を実施してきました。

関西自然保護機構業績 第332号

池畔道路拡幅問題

1985年3月，市街地の発展とともに，岩倉地区の住民より池畔道路拡幅の請願がありましたが，本会をはじめとする市民団体の京都市への反対請願により，拡幅の請願は審議未了となりました。1989年3月2度目の請願に対し本会が行った建設局，市会，議員への説得にも係わらず，1990年4月の京都市建設委員会で道路拡幅の請願は採択されました。しかし，1990年6月の田辺朋之京都市長の「池をいためず他の手法で――」の発言のまま，道路拡幅計画は今日に至っています。その間，小生宅をはじめ数戸に及ぶ土地買い上げ話を聞いておりますが，いずれも不振に終わり，京都市も困惑しているところだと思われます。池側へ1.5mは埋められるとかいう件は，遠藤彰委員長（京都市深泥池保全活用方策委員会）時代には全然なかった筈でして，これは未だ理解出来ないところです。

最近，2003年5月22日の京都新聞朝刊で宝池狐坂へアピンカーブを130mにして高架化するとの計画が発表されました。2005年度の完成めざすとあり，一つの解決方法ができたものと喜んでおります。

最近の活動

ダム問題

私は上賀茂学区の保健協議会長も兼任し，地域の保健安全の推進および環境保全に努めています。この保健協議会の活動に関連して，隣接する雲ヶ畑の地域から依頼を受け，深泥池を美しくする会と保健協議会の共催で1990年3月に第1回環境問題を考える会を上賀茂会館で開催しました。会議の議題は「鴨川上流にダムは必要なのか？」でありました。雲ヶ畑からは自治連合会長と志明院住職が参加され，満員の聴衆にビデオ等も使い，切々と訴えられ，ダム問題というものを知り，感銘を受けました。その年の7月頃に京都府知事は「ダム計画は白紙に戻し，中止する」と声明されました。

会議の主催と諸会議への積極参加

1992年3月，第2回環境問題を考える会による「世界に誇れる自然遺産を守ろう」の会議が上賀茂会館で開催されました。京都大学名誉教授鯵坂二夫氏，京都大学生態学研究センター助教授田端英雄氏らが深泥池の重要性を地元で訴えられました。本会はこの会議に積極的に参加しました。1994年1月，平安建都1200年協賛・京都市視聴覚センター主催によりアスニーで開催された会議で，私は「深泥池の自然」ビデオ25分を上映し，天然記念物深泥池の自然の講演を行いました。1994年11月，第4回環境問題を考える講演会を深泥池を美しくする会創立30周年記念特別講演会として開催することとし，京都商工会議所講堂にて岡田節人京大名誉教授および織田敏次東大名誉教授にご講演いただいた。1995年7月には岡田および織田両名誉教授の講演内容を取りまとめて冊子を刊行した（深泥池を美しくする会，1995）。

1998年3月，京都市の深泥池保全事業の一環として外来動物調査・除去のため深泥池水生動物研究会（竹門康弘大阪府大助教授）が発足し，定置網（えり）二基を設置しました。この会には地元より多数参加し，一時は定置網4基が設置されました。投網，もんどり等も利用し，森川陽平氏（大阪府立大学），阿部倉完氏（京都大学）中心に現在も外来魚除去作業は継続中です。2000年4月の第6回環境問題を考える会開催と「深泥池の詩」の発表は既に記しました。

清掃活動

2003年5月11日　本会春の一斉清掃は総勢160名で，池及び周辺の清掃に従事し，環境局町の美化事業団から中，大型ごみ収集車が入り，保全活用委員の光田先生のご指導で地元の伊藤氏等が，既に収容してあったマコモ，水草等の不燃物と立ち木10数本も一挙に，収集車の中へ処理されたわけです。いよいよ池全体にジュンサイ，やヒメコウホネも広がり深泥池らしくなってきました。外来動植物の除去や水質の改善，自然水の導入を促し，池の陸化を食い止め，開水域を拡げ，深泥池の詩にも歌われている北山のふもとの深泥池は京文化そのものであり，いつまでも世界に誇れる平和の砦でありつづけて欲しいものです。60余年池の畔に住み40年近く池を見つめてきた。美しくする会員として今日のシンポジウムにご参集の皆様方に心からお願いするものです。

引用文献

深泥池を美しくする会. 1985.「深泥池」，32pp. 深泥池を美しくする会，京都.

——. 1995.「わたしたちの健康と自然環境」51pp. 深泥池を美しくする会，京都.

資料1．深泥池を美しくする会35年余の歩み.
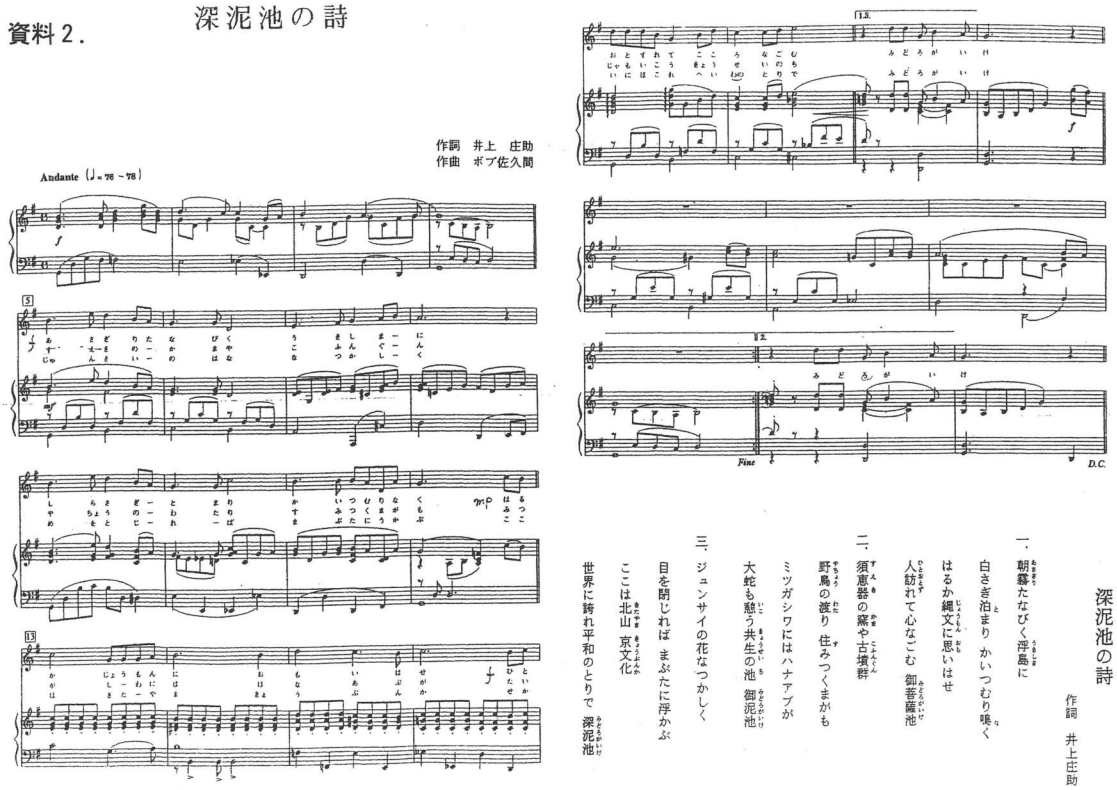
年月日		事　　項
1927		深泥池が国の天然記念物「深泥池水生植物群落」に指定される
1965	7	第1回役員会．第1回総会．市文観局主幹・園部氏來池
1965	11	文化の日．池及び周辺の清掃．大型啓発板と立札設置．集会
1966	3	桜7本植樹．池及び周辺大掃除．府文化財保護課長・荒尾氏來池
1967	3	蜷川，富井両顧問が相次いで來池．南堤防でそめいよしの3本植樹後，挨拶を受ける．池及び周辺の清掃．深泥池研究所開設
1968	5	奈良女子大学・津田博士に深泥池の調査依頼
1972	12	地学研究団体．ボーリング等開始
1977	4	京都大学の北村，吉井両博士來池．京都市の総合調査始まる
1977	7	京都大学の上田正昭氏等と会員との地域の歴史に関する懇談会（於浄福寺）
1981	9	市 文化財保護課より総合調査研究報告書「深泥池の自然と人」を寄贈される
1983	3	1週間池沿い道路の交通量調査
1983	5	京都市空き缶条例施行第2次指定地域（散乱防止重点地域）
1983	7	市美化事業団と共催．池及び周辺の大掃除．北区長挨拶
1983	9	深泥ヶ池児童公園にトイレと双眼鏡設置の要望書を市長に提出する
1985	3	岩倉側住民が道路拡幅請願申請．当会は道路拡幅反対請願申請
1985	10	本会創立20周年記念冊子「深泥池」8500部第1次入荷．会員と上加茂全世帯，小学校，中学校，高校，府市会関係，国会図書館，池来訪者に配布．近畿府県発送
1987	3	道路拡幅問題審議未了（本会議）
1988		深泥池生物群集と名称拡大される
1989	3	第2回岩倉側，道路拡幅請願申請．岩倉地域よりの請願に対し，建設局宛陳情書提出
1990	3	第1回環境問題を考える会を開催（於上賀茂会館）し，「鴨川上流にダムが必要なのか?」の題名で講演会を行う．雲ヶ畑自治振興会長，波多野秀雄氏．志明院住職，田中真澄氏講演
1990	4	岩倉地域よりの請願を建設委員会で採択
1990	5	市役所で記者クラブ，各部屋へ訴え．三ツ野道路部長に抗議申し入れ
1990	6	深泥池を守る会が結成され，シンポジウムがもたれた（京大会館）

資料1.(続き)

年月日	事項
1990 6	田辺市長定例記者会見で池を第一義として守る．道は他にも考え手法も考える
1992 3	第2回環境問題を考える会「世界に誇れる自然遺産深泥池を守ろう」．京都大学名誉教授，鯵坂二夫．京都大学生態学研究センター助教授，田端英雄氏（於上賀茂会館）
1993 11	第3回環境問題を考える会「上賀茂一帯の遺跡について」奈良国立文化財研究
1993 3	京都市建設局京都市岩倉・上賀茂線深泥池検討委員会発足所，岸本直文氏（於上賀茂会館）
1994 1	平安建都1200年協賛．京都市視聴覚センター主催．ビデオ「深泥池の自然」25分上映と天然記念物「深泥池の自然」の講演（於アスニー）深泥池を美しくする会：会長井上庄助氏
1994 11	第4回環境問題を考える会開催．深泥池を美しくする会創立30周年記念特別講演会（於商工会議所講堂）「わたくしたちの健康と自然環境」東京大学名誉教授・日赤医療センター名誉院長織田敏次氏（環境と健康―肝炎ウイルス対策）京都大学名誉教授・生命誌研究館長岡田節人氏（生物多様性をめぐる問題）
1995 6	京都府知事より環境保全功労者表彰を受ける
1995 7	浮島でホロムイ草盗掘される
1995 10	創立30周年記念講演開催および記念文集1200部作成会員他関係者に配布
1996 3	六斉念仏（辻家）上演，市より係官録音ビデオ文書等持ち帰る
1996 9	深泥池買上げ15億円の記事突如記載される。朝日新聞，京都新聞，読売新聞
1996 12	京都市文化観光資源保護財団より深泥池の写真2枚入りカレンダー贈られる
1997 6	深泥池検討委員会終了
1997 11	京都市環境保全室の補助を受け，宮内光学よりBW-77SCF口径77 mm 20倍直視型双眼鏡（2.5 kg）と大型三脚各2機購入
1997 11	文化市民局主催．天然記念物深泥池生物群集保全・活用方策検討委員会発足委員長，遠藤他15名委員．深泥池を美しくする会より井上参加（於アスニー）
1998 3	市の保全事業の一環として外来動物調査，除去のため，深泥池水生動物研究会（竹門康弘大阪府立大学助教授）が発足し，定置網（えり）二基を設置
1998 5	京都の文化財を守る会（笹池会長）130名現地見学．冊子進呈，双眼鏡も利用して8名で対応
1998 10	第5回環境問題を考える会開催（於上賀茂友の会ホール）我国の河川事業の歴史と河川環境問題，京都大学防災研究所上野鉄男先生
1998 10	市制100周年記念，京都市長より表彰される
1998 10	京都文化観光資源保護財団「京都・深泥池の四季」のカレンダー100部贈られる
1999 3	水生動物研究会中間報告会．報告書2000部配布される
1999 7	文化観光資源保護財団への寄稿文（井上会長）が会報77号として発行される
1999 12	深泥池を美しくする会35周年記念写真展，30点近く出品（京都信用金庫）
2000 4	第6回環境問題を考える会開催：深泥池を美しくする会，創立35周年記念「深泥池の詩」発表，地球環境保全を訴える音楽会（於深泥池畔）作詞：井上庄助，作曲：ボブ佐久間，伴奏：愛知金管アンサンブル，斉唱：混声四部合唱，コーラス：サークル・フミ，ドリーム女子・混声コーラス，上賀茂友の会歌の会
2001 10	第7回環境問題を考える会開催（於上賀茂友の会ホール），「地域と環境」京都府商工部次長　井上正嗣氏

資料２.

深泥池の詩



深泥池の詩

作詞　井上庄助

一．朝霧たなびく浮島に
白き汀まり　かいつむり鳴く
はるか縄文に思いはせ
人訪れて心なごむ　御菩薩池

二．須恵器の窯や古墳群
野鳥の渡り　住みつくまがも
ミツガシワにはハナアブが
大蛇も懸う共生の池　御泥池

三．ジュンサイの花なつかしく
目を閉じれば　まぶたに浮かぶ
ここは北山　京文化
世界に誇れ平和のとりで　深泥池